

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに
小学校とも子どもの姿を共有し、学びをつなぎましょう！

健康な心と体



協同性



言葉による
伝え合い



道徳性・規範
意識の芽生え



自然との関わり・生命尊重



思考力の芽生え



豊かな感性と
表現



社会生活との
関わり



自立心



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」留意点

- ※到達すべき目標ではなく、個別に取り出されて指導されるものではないこと。
- ※5歳児に突然見られるようになるものではなく、その前の時期から、子どもが発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことが大切であること。
- ※子どもの自発的な活動を通して、一人一人の発達特性に応じてそれぞれに育っていくものであり、全ての子どもに同じように見られるわけではないこと。

ことば

しなやかに人とつながり
表現する子ども



思考力・判断力・表現力等
の基礎

自然

生命を大切にし、
豊かな感性をもつ子ども



知識及び技能の基礎

愛情

自分や周りの人に愛情をもち
主体的に活動する子ども



学びに向かう力・人間性等

小学校への接続を見据えて出会わせたい経験

架け橋期のカリキュラム 5歳児(簡略版)

自分の気持ちを
自分の言葉で
表現する

友達と一緒に相談したり
解決しようとしていたりし、
気持ちが伝わる心地よさを味わう

友達とのやりとりの中で
自分の思いを伝えながら、
相手の気持ちを考え
折り合いをつけて関わる



生活に必要な習慣や
態度を身に付ける

友達と協力し、遊びや生活を進
める充実感を味わう



やってみたいことに取り組み
充実感や満足感を味わう

自分らしさを発揮し、
自分の力で行動するこ
との充実感を味わう

就学に期待をもち、
大きくなったことを喜ぶ

進級したことに
喜びと期待感をもつ

これらの経験 (架け橋期のカリキュラム 5歳児版)を「遊び」を通して

- ① 個々の発達や興味関心に応じて
- ② 子どもの主体性と保育者の意図をバランスよく絡み合わせて

就学までの長いスパンの中で偏りなく経験できるよう、保育を計画することが大切です!

ここが
ポイント!

